

柴田先生 おすすめ本

『とんでもなくおもしろい宇宙』

柴田 一成／著 KADOKAWA (2016)

地球を滅ぼす規模の大爆発を繰り返す太陽、毎年少しずつ地球に近づく月、地球外知的生命(宇宙人)と出会う確率…。夜空を眺めているときには想像もできない、宇宙のダイナミックな姿を紹介する。

【地下1階 440/Sh18 B10815251】

『太陽活動 1992-2003』

フレア監視望遠鏡が捉えたサイクル 23』

柴田 一成／[ほか]著 京都大学学術出版会 (2011)

太陽の爆発現象は、地球の磁気圏や超高層大気に甚大な影響を及ぼしている。世界で唯一のフレア監視望遠鏡でしか得られない太陽画像をふんだんに使用し、太陽活動現象の諸相について、最新の知見を解説する。

【書庫3 444/Ta25 B10721382】
(館内でご利用ください)

『総説宇宙天気』

柴田 一成・上出 洋介／編著
京都大学学術出版会 (2011)

気象衛星や通信衛星などを守り、過酷な宇宙に人類が進出していくため不可欠な定量的宇宙天気予報。それを実現するために必要な観測と予報の理論と実践を基礎から詳説する。

【地下1階 450.12/So62 B10726190】

『全国アホ・バカ分布考』

はるかなる言葉の旅路』

松本 修／著 太田出版 (1993)

視聴者の投稿をきっかけに、とあるテレビ番組で「アホ」と「バカ」の地理的な境界線を探る企画が放送された。大反響の放送後も、言語地理学や柳田民俗学などをたよりに研究を続けたプロデューサーによる、日常の語彙の原点と地理的分布に関する考察。

【書庫2 810.2/Ma81 B10181803】

『竜の卵』

ロバート・L・フォワード／著 山高 昭／訳
早川書房 (1982)

2020年、太陽系で中性子星が発見される。「竜の卵」と名付けられたその星には、地球人の百万倍の速さで時を過ごす知的生物チーラが存在していた。「竜の卵」探査の影響を受けて急激な科学的発展を遂げたチーラは、遂に人類とのコンタクトを果たす。人類による宇宙探査の物語とチーラ文化史が交錯する、ハードSFの古典。

【他館からの取り寄せができます】

『暗黒星雲』

フレッド・ホイル／著 鈴木 敬信／訳
法政大学出版局 (1967)

ある日、一人の天文学者が太陽系に迫りくる暗黒星雲を発見する。それは数年後に太陽を覆い隠し、地球が寒冷期に突入してしまうものであった。暗黒星雲が反射した電波を分析した結果は驚くべきものだった。それは知能を持っていたのだ！地球人の運命やいかに…？

【自動書庫 F3/H96 B10173834】

